

日本組織培養学会

昭和58年2月10日発行

会 員 通 信

第 49 号

発行責任者

三井洋司・山本清高（老人研）

小山秀機（癌研）

菅 幹雄（東北大・抗研）

井出利憲（広島大・医）

東京都板橋区柴町35-2（〒173）

東京都老人総合研究所

電話 03-964-1131

§ 日本組織培養学会第55回研究会のご案内

昭和58年度春の本学会第55回研究会は、福井市で開催いたします。福井市周辺には永平寺や国定公園越前海岸などの古刹名勝が多く、特に福井県嶺南小浜市周辺には古社古刹国宝重文が数知れずあります。研究会の後の週末の探勝も兼ねて多数の皆様のご参加を期待申し上げます。

1. 会 期： 昭和58年5月26日（木）・27日（金）

2. 会 場： ユアーズホテルフクイ（国鉄北陸本線福井駅前）

福井市中央1丁目4番8号 〒910

TEL 0776-25-3200

3. 特別講演（予定）： Dr. M. M. Elkind, chairman

（Department of Radiology & Radiobiology, Colorado State Univ.

Fort Collins, CO. 80523, U. S. A.）

演題未定

4. シンポジウム： 組織培養と制がん研究（予定）

オーガナイザー 加納 永一

日進月歩の実験及び臨床制がん研究に組織培養研究者はどのように貢献してきたか、貢献しつつあるか、また、将来はどのように貢献しうるであろうか等について各方面の研究者の講演を予定しております。白熱した討議を期待しています。

5. 参加および講演申し込み： 参加および一般講演希望者は、申し込み票にご記入の上、下記の世話人あてお送りください。

一般講演は1題18分、討論7分 計25分を予定しております。

講演申し込み締切：昭和58年3月15日（火）

講演申し込みをされた方には、「組織培養研究」（抄録）掲載の為の講演要旨（オフセット印刷）の用紙をお送りしますので、3月31日（木）までに世話人あてご返送ください。

6. 参加費： 会員 4,000円、非会員 4,500円

7. 懇親会： 昭和58年5月26日（木）午後6時より同ユアーズホテルフクイで行います。

懇親会費 3,000円

8. 送金方法： 参加費および懇親会費は、銀行振込または郵便振替（住友銀行福井支店 普通口座 889030、福井銀行松岡支店 普通口座 095405、または郵便振替口座 金沢1-242 日本組織培養学会第55回研究会 加納永一）にて3月31日（木）までにお送りください。

9. 宿 泊： 当地は県庁所在地ではありますが、ホテル事情はよろしくありません。そのため
5月25日・26日のホテル宿泊予約は早急にしていただきたくその便宜をはかるため
当方で、ある程度以上と思われるホテルをとりあえずリストアップしておきました。
(別表)

第 55 回 研 究 会 推 せん 宿 泊 施 設

	住 所	電 話	室 料 (部 屋 数)
ユアーズホテルフクイ	〒910 福井市中央1-4-8	(0776) 25-3200	シングル 5,700～ (62) ツイン 11,000～ (8) 和室(3名)15,000～ (4)
シティホテルフクイ	〒910 福井市日の出1-1-17	(0776) 23-5300	シングルA 5,000～ (6) シングルB 5,500～ (84) ツイン 8,800～ (2)
ホテル名和屋	〒910 福井市中央3-11-28	(0776) 24-1182	シングル 4,400～ (20) ツイン 8,000～ (7) 和室 3,000 ～7,000 (13)
福井パレスホテル	〒910 福井市順化2-1-3	(0776) 23-3800	シングル 4,000～ (21) ツイン 6,800～ (11) 和室 6,800～ (7)
福井ニューパレスホテル	〒910 福井市順化1-12-17	(0776) 23-3801	シングル 3,800～ (70) ツイン 6,000～ (9) 和室 6,000～ (1)
福井厚生年金会館	〒910 福井市手寄2-1-5	(0776) 27-7111	シングル 3,600～ (20) ツイン 6,000～ (17) 和室(2名) 7,500～ (1)

S. 57. 11. 25. 現在

これらの宿泊施設から研究会会場までは徒歩で通えます。

10. 参加, 講演申し込み, および連絡先:

〒910-11 福井市吉田郡松岡町下合月

福井医科大学放射線基礎医学教室

日本組織培養学会第55回研究会

世話人 加納 永一

TEL 0776-61-3111 (内線 2257 又は 2255)

§ 第三回国際細胞培養会議

(The Third International Congress of Cell Culture) 日本開催について

同会議組織委員会代表 山 根 績

「会員通信」前号の黒田氏による「研究会総会報告」の中に、本学会後援のもとに第三回国際細胞培養会議を私共が世話して1985年9月、仙台で開催されることが述べられております。同会議のこれまで成立経過と第三回会議の内容の「タタキ台」のようなものを述べて皆様のご理解を得たいと思います。

本会議の第一回および第二回会議はいづれも米国アラバマ大学のアクトン教授の世話でアラバマ大学の所在地バーミンガムで行われ、大部分はアメリカと一部ヨーロッパの研究者によるシンポジウム・ワークショップから構成されたものでした。主催者の一人アクトン教授自身は米国T C Aの会員であります。当時の米国T C A役員との事情で米国T C A後援が得られないまま本会議が開催されたことを来日されたアクトン教授より伺って居ります。

しかし第三回会議は日本T C Aとともに米国T C Aの後援も得られる旨、同学会の役員の一人名であるコロラド大学のハム教授より連絡をいただきました。また同教授より第三回会議を契機として、世界の細胞培養研究者の公式の連合体(Union of Worldwide Cell Culturists)を確立したらどうかという具体的提案をいただきました。この提案は未だ培養研究者の世界規模での正規の連合体をもたない私共にとっては極めて重要でありますので、第三回会議の際は是非実現させたいと存じます。

つぎに本会議の第一回、第二回の内容の特徴を一口で言いますと、動物細胞の培養技法および培養細胞の生理活性物質産生に関したものが主体であります。第三回会議は特にこれに拘束されることはないと思います。しかし細胞生物学会やがん学会とは別個に本学会独自の存在理由を考えると、当然第一回、第二回の特徴を第三回の重点の一つに置いてしかるべきではないかと考えます。現在までのところわれわれは生体内の重要な機能をもった細胞を再現性高く、自由に直接培養することは必ずしもできませんし、また試験管内で培養された細胞に生体中で発現されている分化機能を安定的に保持することは必ずしも容易なことではありません。この意味でも常法としての安定した培養技法の開発は生物科学の発展にとって緊急な課題であることは言うまでもありません。

ここで第三回(日本での)会議の内容に関して、その「タタキ台」とでも申すべきものを私の試案として次に羅列いたします。

1. 分化細胞の大量培養
—生態学的・栄養学的側面—
2. 上皮細胞の選択的初代培養と継代
3. 細胞株の分化機能の誘起
—リンフォカインを含む誘起剤—
4. 細胞の分化機能の保持
 - a) クローニング
 - b) 保持培養法
 - c) 貯 蔵

もちろん上記のプロジェクトは「タタキ台」的なもので、本会議プログラム委員会の方々に十分検討していただき、今年10月頃までに成案を得たいと思います。また一般演題を発表していただくかどうかも検討していただきたいと思います。一般演題の有無により会期も一兩日の長短があると考えます。最後に今までに決まりました本会議の役員メンバーを列記して、このお知らせを終わりますが、今後皆様の全面的なご助言、ご援助を積極的に期待いたします。

組織委員（北から南へ）；山根 敏，高岡聡子，山田正篤，佐藤次郎，高木良三郎，
プログラム委員（北から南へ）；菅 幹雄，大野忠夫，三井洋司，黒木登志夫，梅田 誠，
黒田行昭，沖垣 達，村上浩紀，

§ 庶務幹事から

☆ 日本学術会議会員選挙について

第13期会員選挙が本年に行われます。昭和55年度以降、本学会の会員になられた有資格者で、まだ、学術会議に有権者登録をなされていない方は、至急下記へ登録して下さい。

登録締切りは2月28日ですが、それ以前に葉書に、「登録用カード用紙請求書」，「氏名（ふりがな）………㊤」，「住所（郵便番号）………」の3項目を横書きし、下記へ請求して下さい。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議中央選挙管理会

☆ 特許法第30条第1項の規定に基づく学術団体の指定について

日本組織培養学会は昭和58年1月10日付をもって特許法第30条第1項（実用新案法第9条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づく学術団体の指定を受けました。

本学会の研究発表は、特許申請のさい有利になる場合がありますのでご利用下さい。

詳しくは庶務幹事（大野忠夫）にお問い合わせ下さい。

§ 北から南から — 研究室だより —

☆ 東北大学抗酸菌病研究所細胞生物学部門

本学抗酸菌病研究所は、名前の如く抗酸菌病に関する様々な方面からの考究を目的として設立されたが、戦後、抗酸菌に対する抗生剤やワクチン療法が目覚ましい発展に伴い、研究の主眼が癌へと変遷してきた。

このような背景の上で当部門では、「PEGによる細胞融合法を利用した癌細胞の遺伝的解析およびモノクローナル抗体産生細胞の樹立」，「リンパ球系細胞からのインターフェロン産生機序の解析」，および「培養細胞に対する成長因子の解析」を三本柱とし、細胞の老化機序から無血清培養系での培養細胞産生物の純化に至るまで、幅広い分野に渡って研究を進めている。

これらの研究を山根教授以下、助教授1，助手2，技官1，技術補佐員3，研究生4の総勢12名で

行っている。この構成員は、北は青森から西は山口に至るまで様々の地方から色々な人が各々の考えを持って集結してきた、言わば雑種融合世帯で、あちらの方で東北弁の会話が交わされたかと思うとこちらの方では関西弁の会話が交わされるといった状況である。だが、事、細胞に関しては、みな造詣が深く、ちょっと細胞に関する話題を出そうものなら一夜を費やしてでも話題が尽きないような可能性を秘めている。それ故、誰もが細胞に関する話題を提供したがないのが実情である。この中で、公式の委見交流の場として週一回の妙腕会、および月一回の研究報告会が設けられており、活発な討論の場となっている。

また、昨年、東北新幹線が部分開業した事により仙台の交通事情も改善され、首都圏ともスムーズに行き来が出来るようになりましたので、是非、会員諸兄の方々も来仙され、皆様方と松島・青葉城・蔵王など、仙台およびその周辺の自然を満喫しつつ、大いなる意見交換を行いたいと思っております。

(長田 宏美)

☆ 小さな大学の組織培養室

— 県立広島女子大学家政学部生活科学科 —

規模の小さい公立女子大の拘えている問題は大きく、存続のレゾナードルが問われて久しい。大学側でも年月をかけ改革案を作ったが、行政側の反応はにぶい。しかし社会の変化に応じ、カリキュラムを変えるうち家政学部の内容は世間のイメージから大きくはみだしつつあるのが現状である。一方教官にとって家政学部で教育・研究することはどうかというと、やはりデメリットが大きい。例えば普通の大学人と一緒だと思われていないという疎外感は意外に大きい。次いで大きな実験設備の不備も目立つ。例えばアイソトープや動物飼育設備がないなどである。

ただ研究を深め、それを基にして教育を行うというたてまえはかかげてあり、設備、研究費、人手不足や雑用が多いことなどの不満も大きいが、研究に関する拘束は全くない。4年生は授業が殆んどなく、数人づつ各教官に配属して1年間実習させ、その成果を2日間に亘って報告させるが、これが教官の研究に対する緊張維持に一役果し、この間学生をどの程度研究補助として協力させられるかが大事になる。

私が転動してきて、培養ができるようになって3年になるが、幸運にも毎年機器を買い求めることができ、現在炭酸ガスフランチ器2基、蛍光、倒立顕微鏡類、乾湿熱滅菌器、その他培養に要する器具類は一通り揃った。細胞保存用の小型の液体窒素タンクと -80°C フリーザーには突然変異株を含めると20系統をこす細胞株が保存されている。しかし血清の購入を含めこれらを維持するだけで、ときに経済的に息切れしそうになる。幸い当学部には共通利用設備が2,3ある。無菌室、温度制御室(3°C 、 37°C)高速及び超遠心機を含め主な計測器類である。

どうやら一通りの培養はできそうである。授業の下調べや雑用に費やすエネルギーも減らすことができるようになり、毎日半日以上は仕事に時間をとれるようにしつつある。

10年来興味をもち、ある程度仕事をしてきた細胞融合や突然変異細胞をとり遺伝的研究をする体細胞遺伝学の領域に今も籍を置いているつもりであるが、最近この分野でも進歩は著しく、能力不足を自覚させられるのである。

しかし、1人では完成度の高い仕事をするのが益々難かしくなっているのも事実である。幸いこれまでの研究生活で全国に多くの優れた人々の知遇もえている。その中から協同の研究として利用できる人、又利用してくれる人を見つけながら自分の仕事の不完全な部分をうめることが最も必要なことだと考えている昨今です。

(草野敬久)

§ 編集後記

本号には第55回研究会案内が掲載されておりますが、今回も申し込み締切り期日までにあまり時間的に余裕がありません。ご注意下さい。

現在、会員通信は2月号(春の研究会案内等)、7月号(秋の研究会案内等)と12月号、と年3回発行しておりますが、12月号とこの時期との期間が重なっており、どうしても時間的に余裕がもてません。そのため、原稿依頼もついつい急がせて、ご迷惑をおかけしております。発行時期については(もちろん内容についてもですが)何とかしようと考えておりますが……。

暖冬だった今冬も、時折、思い出したように寒波が襲来し、そのためかどうか、インフルエンザが流行しているようです。会員の皆様、お身体をご自愛下さい。

(K. Y. & M. T.)

§ 住所等の変更

(57年12月現在)

氏名	研究機関	〒	同住所・電話番号	備考
沖 俊一	台糖ファイザー(株) 生化学研究所	470-23	愛知県知多郡武豊町字5号地	p.9
林 潤一	名古屋保健衛生大学総合医科学研究所 心臓血管部門	470-11	豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 豊明(0562)93-2000	p.33
矢嶋 信浩		227	横浜市緑区長津田7-10-18 横浜(045)984-1875	p.43
山田 堅一郎	国立予防衛生研究所 ウイルス・リケッチャ部	141	東京都品川区上大崎2-10-35 東京(03)444-2181	復活